

1

千代田区景観まちづくり重要物件

九段会館本館

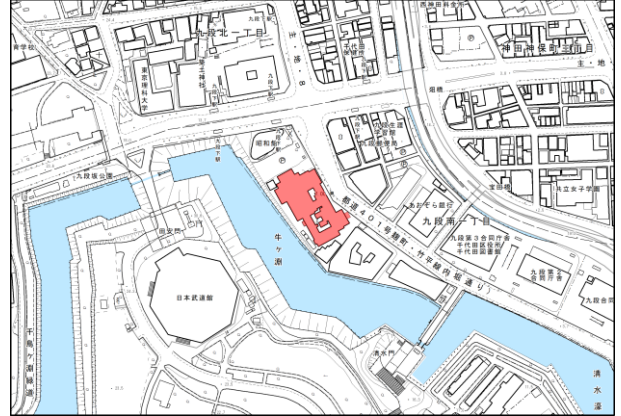
指定日 2003（平成 15）年 6 月 9 日

所在地 九段南一丁目 6 番 5 号

設計者 川元良一

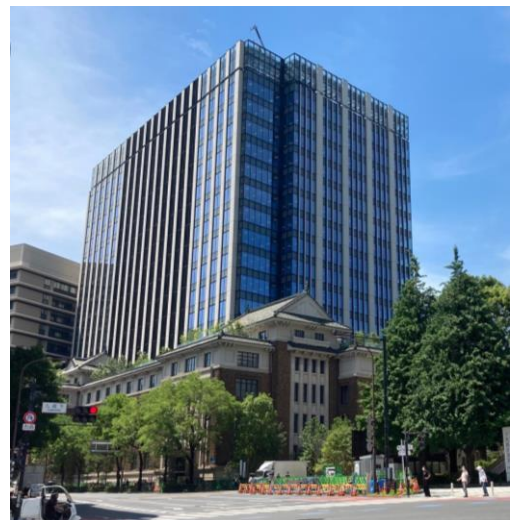
竣工 1934（昭和 9）年
2022（令和 4）年 6 月建替え

文化財等
指定状況 国登録有形文化財（建造物）



▲九段会館

元の建築物の意匠を残した低層部のデザイン



九段会館▶

低層部を残しながら高層化された全体像

歴史・文化的特徴

旧名称は「軍人会館」と言い、帝国在郷軍人会の施設でした。1936（昭和11）年に起きた二・二六事件の際には戒厳司令部が設置され、歴史的イベントの舞台となりました。戦後GHQ（連合軍総司令部）に接収され、連合軍の宿舎となりました。1953（昭和28）年より国から（財）日本遺族会に無償貸与され、「九段会館」と改称された後、ホテル・結婚式場・貸ホール等を運営してきました。

2011（平成23）年3月に発生した東日本大震災による天井崩落を受け、同年4月に廃業しました。その後、低層部の城郭風の建築様式を残しつつ、地上17階（最高高さ約85.0m）、地下3階建ての複合ビルへの建替えが行われました（2022（令和4）年竣工）。

意匠・構造の特徴

「国粋ノ気品ヲ備ヘ荘厳雄大ノ特徴ヲ表現スル」という設計協議の要求にこたえ、最上部に城郭風の意匠を取り入れたもので、昭和初期に流行した帝冠様式の代表的建物となっています。

外観は、地形に合わせて突出部分を多くして変化に富み、外装タイルは震災復興期特有のスクラッチタイルが使用されています。建物の隅部には、細かい直線的なモチーフの繰り返しが見られ、基本的に洋風である下部と和風の最上部との調和が図られており、当時最新の設備を誇った建物でした。

また、建築物内部においても、正倉院宝物殿の銀壺と類似したクロス、ブロンズや鈴メッキが施された金属製の建具、希少価値の高い大理石など現代では入手が難しいような創建当時の材料や金属製装飾が施されていることや、戦前の職人による漆喰装飾が施されていることなど、歴史的保存価値が大変高い設えとなっています。

周辺景観との関係

内堀通りと靖国通りの交差点に面して建っており、西側には牛ヶ淵の濠が広がっています。九段坂の坂上からは建物を一望することができ、濠の水辺空間、土手の緑と、建物の落ち着いた色合いが調和した景観を形成しています。

周辺景観のどの位置からも建物を一望することができ、地域のランドマーク的な役割を果たしています。建物のある九段周辺は、靖国神社など戦前の地域的特色を色濃く残した場所であり、九段会館も地域を特徴づける代表的な建物のひとつとなっています。

